

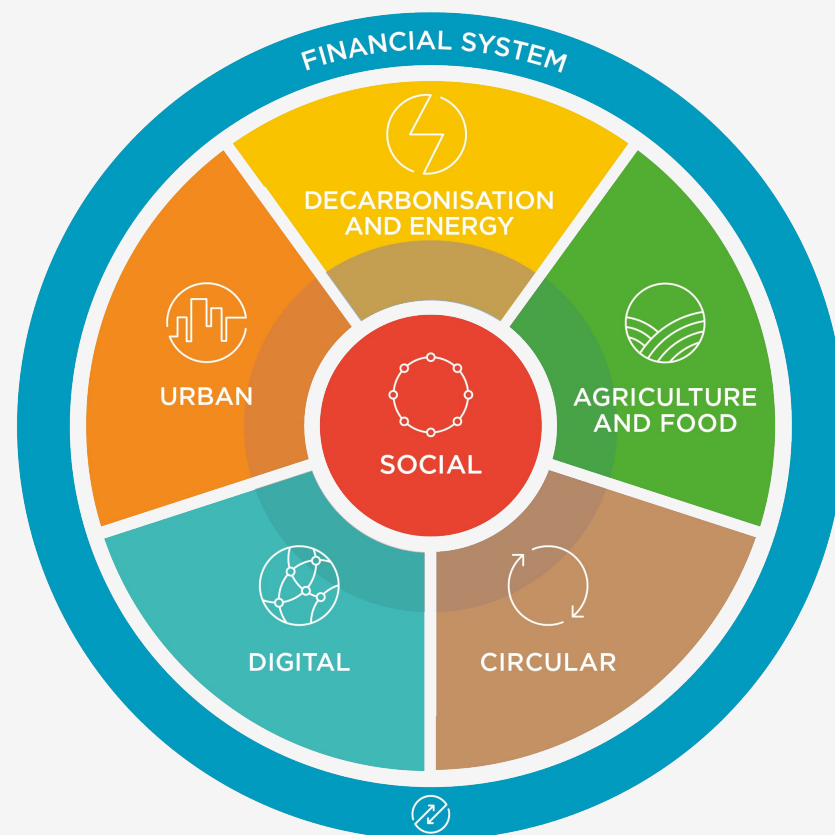


最も大きな影響力を持つ水産会社トップ30の測定及びランキング

私たちは水産業界の持続可能性に関する取り組みを推進し、透明性を向上させ、影響力を拡大する活動に取り組んでいます。
一緒に活動しませんか。

より良い世界に向けての ベンチマーキング

- 世界の歩みをよりサステナブルで復元力のあるものにするためには今すぐ行動する必要があります。
- 変革なしにSDG (持続可能な開発目標) の達成はあり得ません。
- SDGの達成には、各SDGの相互関連性と相互依存性についての認識、全ての関係者によるアクティブな取り組みが必要です。
- 私たちは変革が必要なあらゆる分野の、影響力の大きな企業2000社を評価する一連のベンチマークを無料で公開しました。



食料・農業システム変革の一環として水産物にも注目が集まっています



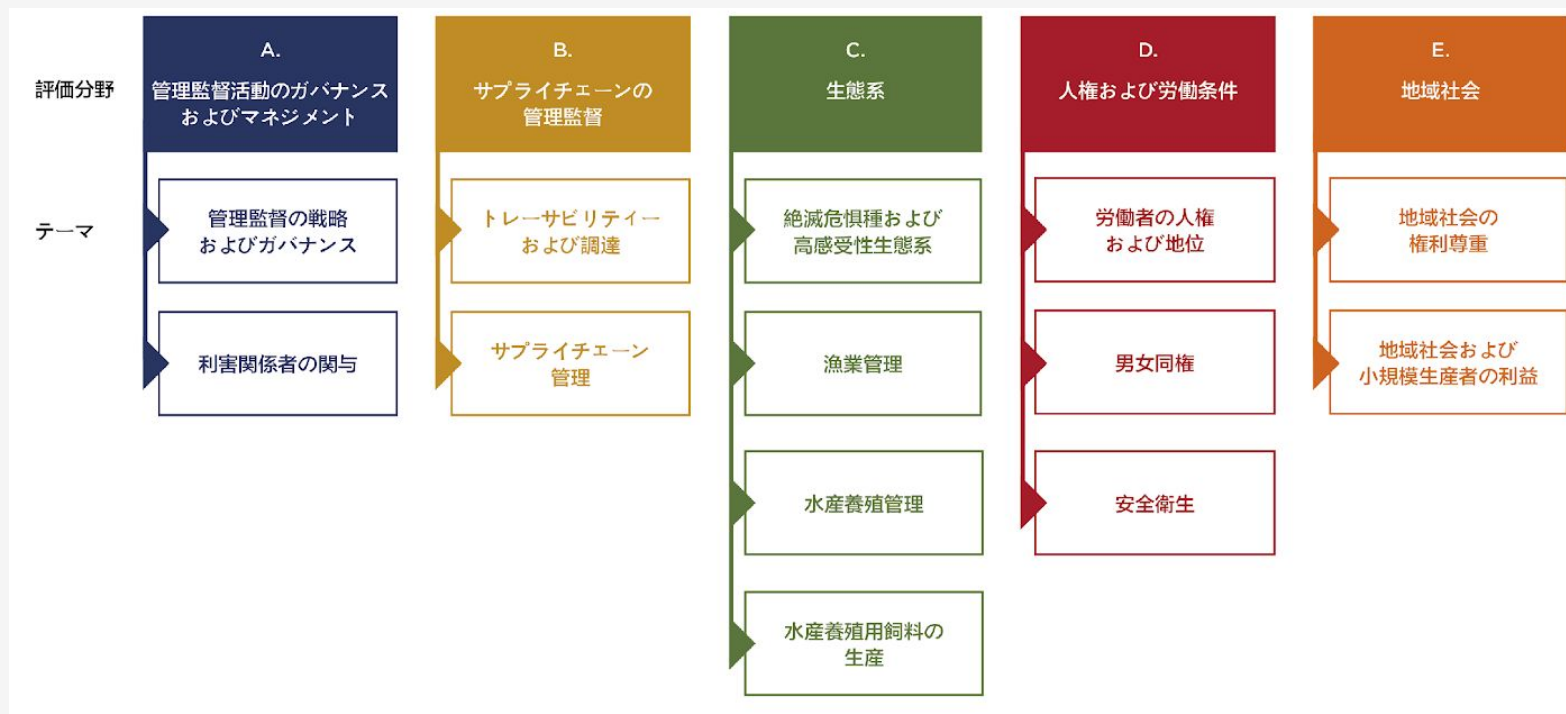
世界で最も大きな影響力を持つ 有力水産会社トップ30 を測定

- 業界の「要」となる有力企業は、業界のシステムの構造と機能にけた違いに大きな影響を与えます。これらの企業は業界を支配し、コントロールし、結び付け、影響を与える存在です。
- 少数の企業が世界の水産物の生産や貿易に対して大きな影響力を持っています。
- 世界の水産業界に大きな影響力を持つこれら企業は、業界のサステナビリティに向けての動きを先導し、ポジティブな変化を加速させることができます。
- ベンチマーキングは後続の企業に対するリーダーシップを発揮し、責任を果たします。



30の水産会社に対する ベンチマーキング

WBAシーフードスチュワードシップインデックス (SSI)は5つの測定分野における結果に基づく総合ランキングを示すものです。これらの分野は、関係者が協力してアクションを起こすことが期待される分野で、各企業はこれらの分野に大きな影響を与えることができます。



ランキング

1	Thai Union Group		2.70 / 5
2	Mowi		2.42 / 5
3	Charoen Pokphand Foods		2.32 / 5
4	BioMar Group		2.22 / 5
5	Nueva Pescanova		2.04 / 5
6	Cargill Aqua Nutrition		1.87 / 5
7	Nutreco (Skretting)		1.86 / 5
8	Mitsubishi Corporation		1.79 / 5
9	Parlevliet & Van der Plas		1.72 / 5
10	Austevoll Seafood ASA		1.70 / 5
11	FCF Co., LTD.		1.53 / 5
12	Nomad Foods		1.51 / 5
13	SalMar		1.50 / 5
14	Labeyrie Fine Foods		1.36 / 5
15	Royal Greenland		1.33 / 5

16	Bumble Bee Foods		1.27 / 5
17	Nippon Suisan Kaisha (Nissui)		1.19 / 5
-	Tri Marine Group		1.19 / 5
19	Dongwon Group		1.17 / 5
20	Marubeni Corporation		0.87 / 5
21	High Liner Foods		0.84 / 5
22	Maruha Nichiro		0.83 / 5
23	Kyokuyo		0.76 / 5
24	Pacific Seafood Group		0.49 / 5
25	Cooke		0.41 / 5
26	Wales Group (Sea Value & Sea Wealth)		0.34 / 5
27	Red Chamber Group		0.23 / 5
-	Trident Seafoods		0.23 / 5
29	Yokohama Reito (Yokorei)		0.12 / 5
30	Shanghai Fisheries Group Co., LTD.		0.06 / 5

調査で明らかになった点

大部分の企業がサステナビリティを重視している。

測定対象企業のうち28社が、自社のサステナビリティに対する企業責任に言及しました。15社が企業としてサステナビリティ戦略に前向きに取り組むと明言しています。

水産分野の業務とサプライチェーンの複雑さによって環境的・社会的リスクが高まっている。

会社の所有者は誰なのか？ 経営を受け持っているのはどこ？ サステナビリティ戦略実施の責任者は？ 調査した企業の多くが複雑かつ多様な構造をもつ複合企業に属していました。



調査で明らかになった点

各企業は違法漁業に対する対策をもっと拡充できる。

IUU (違法・無報告・無規制) 漁業による年間漁獲量は2600万トンにもものぼっています。調査対象企業の83%がIUU漁業で取れた水産物の排除に取り組んでおり、IUUのリスクへの対策手順を決めていると答えました。しかしIUUに特化したリスク評価を行っていると答えた企業は全体の3分の1にとどまりました。

各企業は人権問題への取り組みを充実させている。

対象企業30社のうち22社が人権問題への対策に取り組んでいました。しかしそれをしっかりとした手順の形にする取り組みはまだ足りません。例えばダメージを受けた人の復帰プログラムを持っている会社は全体の20%に過ぎませんでした。

Health & safety

83%

Grievance mechanisms

56%

Remediations

20%

調査で明らかになった点

水産物のサステナビリティ推進には
透明性の改善が喫緊の課題である。
ベンチマーク測定対象30企業のうち28社
がサステナビリティ認証プログラムを持っ
ていると答えました。しかし、情報開示が
不足しているためどんな認証活動、サス
テナビリティ関連活動が行われているか
がはっきりと分からないのが実情です。



100以上の提携企業



提携企業の数は増え続けています。最新情報についてはネットでご確認下さい。



最も大きな影響力を持つ水産会社トップ30の測定及びランキング

私たちは水産業界の持続可能性に関する取り組みを推進し、透明性を向上させ、影響力を拡大する活動に取り組んでいます。
一緒に活動しませんか。

P10: ESG投資家の評価

Sustainable Seafood Index のインパクト

The Impact of Sustainable Seafood Index

株式会社 大和総研 調査本部 研究主幹

河口真理子

Kawaguchi, Mariko

Senior Principal, Daiwa Institute of Research

Nov 7th, 2019

1 ギャップを埋める: 海(水産業) vs 才力(資本市場、消費者)

- 水産業に対する認識 : 持続可能性と水産業を結びつける発想が乏しい。Vs サプライチェーンがグローバルに広がり、環境・人権問題が発生。しかも陸上の活動に比べて透明性が低い。
- 世界における日本の水産業の位置 (30社中、日本企業が6社)

1.Bridging the Gap: Ocean(Seafood industry) vs Land (Consumers, Financials)

- Recognition of Seafood Industry: Few connects seafood with sustainability vs Seafood has long global supply chains, causing environmental and social issues.
- The high exposure of Japanese companies within the industry(6 out of 30).

(出所) 外務省「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」 仮訳
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/entakukaigi_dai1/siryou2-2.pdf

2 ステークホルダの行動変容を促す: Influencing stakeholders

日本の消費者

- 魚好きな日本人: 水産資源の持続可能性の社会的認識: きわめて低かった。
- SDGsへの関心の高まりで、持続可能性全般についての関心増 × 水産業の現状についての情報増 = 社会全体の危機感増加、特に投資家は個人としても反応。

Japanese Consumers

- Japanese consumers love seafood but had little knowledge about seafood sustainability
- SDGs triggered sustainability consciousness × Increased information about seafood industry =
- Social awareness toward seafood crisis rises as well as individuals including investors

投資家

- ESG投資への関心が急拡大。E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)を投資判断材料として考慮する投資家が増加。
- 2018年の世界市場は3300兆円(30.7兆ドル)、2年で34%拡大。日本市場は230兆円(2.2兆ドル)で、2016年から4.1倍に。
- 市場拡大に伴い、考慮するESGの個別テーマが増加。Eのテーマは脱炭素につづき自然資本(生物多様性)にも焦点が。
- 人間の生存には、自然(生物多様性)が生み出す生物や動物(生態系サービス)が不可欠。自然=資本、利子=生態系サービス。資本の健全性をチェック維持することは、投資家として当たり前。水産資源は、魚好き日本人に重要な自然資本。

Investors

- Growing ESG Investment Market : More investors consider environment, social and governance issues in their investment process.
- Global ESG investment market in 2018 reached \3300tril(US\$30.7tril) up 34% from 2016
- vs Japanese market \ 232tril(US\$2.2tril) rose 4.1time since 2016.
- As market grows, investors are now seeking various ESG issues. Regarding environmental issues, natural capital is now gaining more attention next to decarbonization.
- For human kind to survive, off springs(ecosystem service) from the nature (ecosystem, biodiversity) are essential. Nature= capital, Off springs = interest rates
- For investors, checking soundness of capital is necessary condition.
- Seafood is the crucial natural capital for Japanese.
- vs

低い結果： 最高でも2.7(5点満点)

- SDGsのゴール達成にむけて、持続可能な水産業にむけての早急の大改革が必要。
- 金融と消費者の理解と協力が必要。そのために彼らを巻き込むエンゲージメントが大事

Very low result. Highest score is only 2.7 out of 5

- To achieve SDGs goals, rapid and drastic development of sustainable seafood practice is urgent necessity
- Stakeholder involvement is essential and engaging financials and consumers will be important

地球の直径: 約1万3,000km

Earth's diameter: 13000 km



地球上の総水量: 13億8000万km³

直径にすると約1,400km

Total water : 1.38bil km³

Diameter: 1400km



地球上の淡水: 3,600万km³

直径にすると約400km

Fresh water: 36mil km³

Diameter: 400km



地球上の飲料水: 18万km³

直径にすると約70km

Drinking water: 0.18bil km³

Diameter: 70km



(出所) 山本良一編『みずものがたり』ダイヤモンド社(2008年) pp.18-20 より大和総研作成

御清聴ありがとうございました

本資料は投資勧誘を意図して提供するものではありません。

本資料記載の情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。

(株)大和総研の親会社である(株)大和総研ホールディングスと大和証券(株)は、(株)大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。

内容に関する一切の権利は(株)大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等をご遠慮ください。